

# 命の重み 伝え続ける



## Profile たかはま・しんいち

昭和30年7月17日生まれ。事故とがんの2つのテーマで命の大切さを訴える講演活動を精力的に続ける。11月20日、長年の活動が評価され県警から感謝状が贈られた。七城・小野崎区在住。63歳。

「命は何よりも大切。どんなことがあっても生きてほしい」。大勢を前に講演する「命の授業」。遺影を片手に時おり涙を浮かべながら訴える姿に、聴く者は心打たれる。

平成16年12月1日、熊本大学に通っていた長男の怜志さんが交通事故により19歳の若さで急死。平成21年には食道がんを宣告され、命と向き合う日々が続いた。「事故で身内を失った人やがん患者の多くは、自分が当事者になると思っていない。同じ立場の人と関わらうち、自分たちの声を広く伝える場が必要と感じました」。回復後は命の大切さを伝えるNPO団体「いのちをつなぐ会」を設立。教員を退職し、講演活動を九州各地の学校や企業、警察などで続けている。

長男の死後、生きる意味を見出せない日々が続いた。夢に現れた長男が同窓会の世話で奔走する姿を見て、自らも前向きに頑張ろうと決意。「息子はライバルであり親友だった。負けてはいられません」。事故現場に通いつめて原因を調査し、相手の過失を裁判で証明。長男が生きた証を残すため、思い出や裁判記録を記した本も出版した。

「命って、普通は意識しないで生きていっていると思います。でも、突然失ってしまう場合もあるんです。息子は何も悪くなかったのに、突然この世を去りました。講演をきっかけに何かを感じてくれたらうれしいです。そして、息子の存在を知ってもらえたら天国で一緒に喜んでくれると思います」

## 「菊池人」 希望者を募集します

新しいことに挑戦している人、伝統を受け継いでいる人など、菊池で頑張っている人を募集します。本市在住であれば自薦・他薦は問いません。詳しくは市長公室までお問い合わせください。

### 問い合わせ先

市長公室広報交流係  
☎ 0968 (25) 7252



いのちをつなぐ会

## 高瀨 伸一さん



1 事務局として手伝う七城町山崎のがんサロン「しいの木」で、世話人の田村直美さんと 2 趣味は登山。100キロウオーキングには毎年挑戦している。「苦しいときは息子の声援が後押ししてくれます」 3 講演は年間約70回。毎年約1万人に声を届けている